

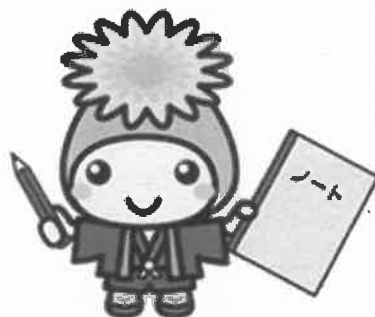
令和4年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川東小学校

はじめにお読みください。

＜調査の結果をご覧になる方へ＞

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

(1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。

(2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。

平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。

(3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の側面であることをご理解ください。

＜全国学力・学習状況調査の概要＞

※「令和4年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和4年4月19日(火)

4 調査の内容

(国語、算数、理科) 教科に関する調査	・小学校調査は、国語、算数、理科とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。	
	【小学校 国語・算数・理科 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

小学校

<教科に関する調査>

は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	70.3	70.4	69.0
我が国の言語文化に関する事項	1	82.6	80.7	77.9
話すこと・聞くこと	2	65.5	68.1	66.2
書くこと	2	43.9	49.7	48.5
読むこと	4	69.5	68.2	66.6

算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	6	66.5	69.9	69.8
図形	4	66.3	64.5	64.0
変化と関係	4	52.3	51.8	51.3
データの活用	3	68.7	69.2	68.7

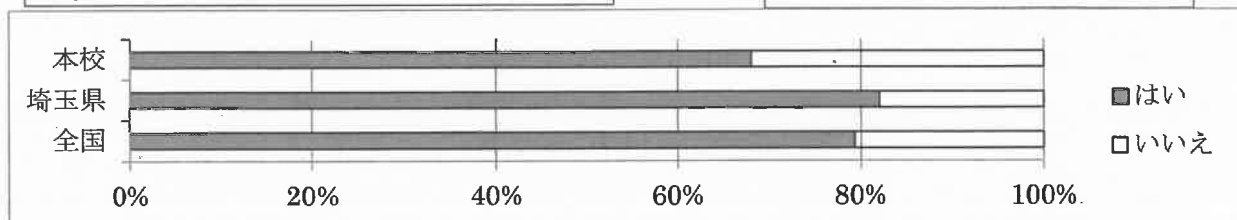
理科				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
「エネルギー」を柱とする領域	4	49.1	52.5	51.6
「粒子」を柱とする領域	5	68.0	61.6	60.4
「生命」を柱とする領域	5	78.6	76.7	75.0
「地球」を柱とする領域	5	64.4	65.3	64.6

＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

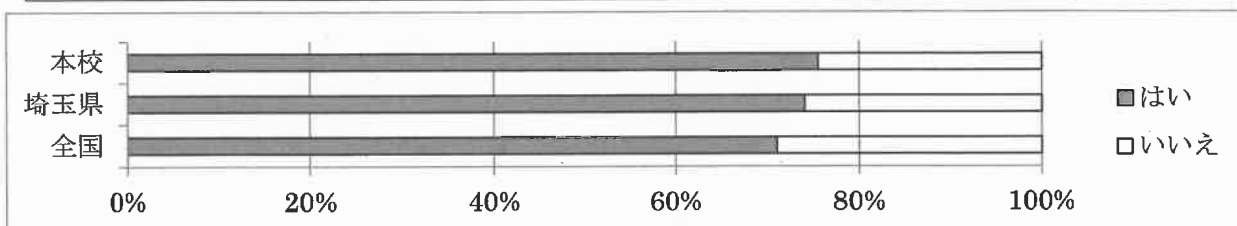
自分には良いところがあると思いますか。

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

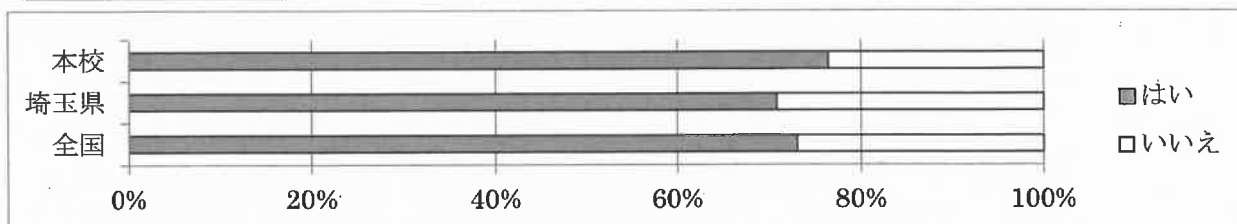
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない



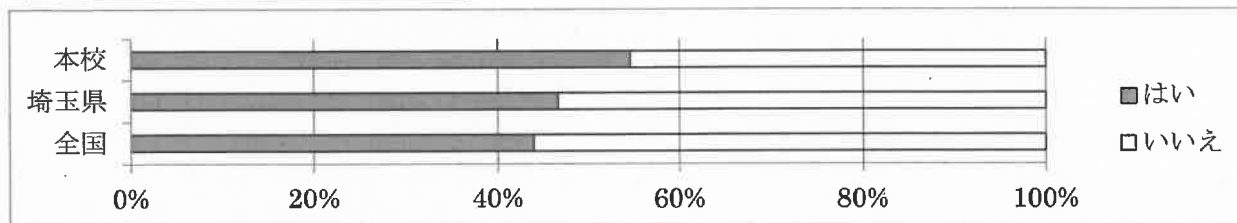
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む。）



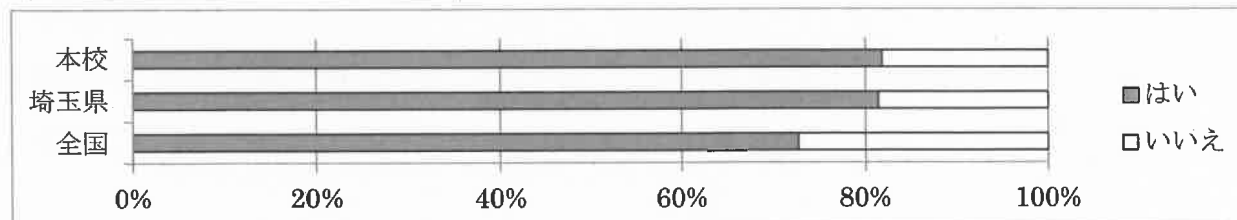
読書は好きですか。



学校で、授業中に自分で調べる場面でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。（インターネット検索など） → 「はい」…週3回以上



総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【学習指導要領の内容から】

- ・「知識及び技能」…県平均、全国平均をおおむね上回っています。
- ・「思考力、判断力、表現力等」…「読むこと」は、県平均、全国平均を上回っております。「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、県平均、全国平均をどちらも下回っております。

※「漢字の書き取り」や「登場人物の捉え方」の問題の理解が高い傾向が見られます。

※「文章のよさを見つける」や「記述式」の問題を苦手としているようです。

※どの設問も県、国よりも無回答率が低く、児童が最後まで問題を解こうと努力している姿が見受けられます。

【問題2ー(2)】

問題

（「銀色の幻想」という物語を読んで、気になるところにふせんをはっています。）

森田さんは

、……部②と③から、「老人」は未来の「ぼく」であると考え、他にもそのことがわかる場所を探しています。「老人」が未来の「ぼく」である考えられる場所として適切なものを、次の1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

正答

- 1 (物語の一部)の____部ア
5 (物語の一部)の____部オ

この問題は、登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることができるかどうかをみています。

正答している児童は、「ぼく」しか知り得ないであろうことを「老人」が知っているかもしれないと考えられる描写や、「老人」と「ぼく」に一致する点があると考えられる描写を捉えることができおり、登場人物の相互関係について、複数の描写を基に捉えることができていると考えられます。

本校の児童は、この問題のような選択式の問題で正答率が高い傾向が見られます。この傾向は、それぞれの選択肢の意味を理解しているからこそ、選択することができるのではないかと考えます。また、そのためには、本文の読み取りが欠かせません。普段の授業や音読の宿題などを通して、内容を読み取る力がついているからではないかと考えます。今後も、児童の学力向上のために、引き続き取り組んでまいります。

【問題3二】

問題

（鳥谷さんは、川口さんと（文章2）を読み合い、感想を伝え合いました。…）

鳥谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことにしました。あなたが鳥谷さんなら、どのようなよさを書きますか。次の条件に合わせて書きましょう・

<条件>

- ①（文章2）のよさを書くこと。
- ②（文章2）から言葉や文を取り上げて書くこと。
- ③六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

正答

- ①②③の条件を満たしていること。

この問題は、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみています。

自分の文章のよいところを見付けるためには、文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点から、具体的に感想や意見を伝え合うことが大切です。鳥谷さんは、友達の川口さんと文章について伝え合ったことを基に、自分の文章のよさを振り返っています。ここでは、「聞いたことや経験したことをもとにしていること」や「最後の段落にがんばりたいことを具体的に書いていること」など、（文章2）のよさについて書き、（文章2）から言葉や文を取り上げて、60字以上100字以内で書くことが求められています。

問題にある条件を理解し、問題の内容に沿った部分（よいところ）を見付けることや文章全体の構成や展開が明確になっているのかなど、課題があります。授業では、問題のような条件を与えて文章をまとめるなどの工夫をし、「書くこと」の力を伸ばしていきたいと考えています。

<算 数>

【学習指導要領の内容から】

- ・「数と計算」は、県平均、全国平均を3ポイント程度下回っています。
- ・「図形」と「変化と関係」は、県平均、全国平均をおおむね上回っています。
- ・「データの活用」は、県平均を下回り、全国平均と同水準です。

※「グラフの読み取り」や「図形の性質、構成」の問題の理解が高い傾向が見られます。

※「目的に合った数の処理の考察」の問題を苦手としているようです。

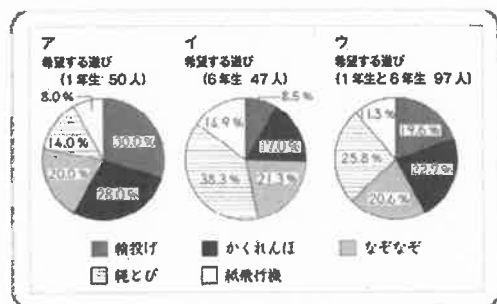
※どの設問によって無回答率のばらつきは見られますが、おおむね県、国よりも無回答率が低く、児童が最後まで問題を解こうと努力している姿が見受けられます。

【問題3 (3)】

問題

(3) まなみさんたちは、まず、1年生と6年生にできる5つの遊びを考えました。次に、1年生と6年生にアンケート調査を行い、5つの遊びの中から希望する遊びを、1人に1つずつ選んでもらいました。

アンケート調査の結果は、下のようなグラフになりました。



まなみさんは、交流会の遊びを次のように決めようと考えました。

【まなみさんの考え】

1年生と6年生が希望する遊びの割合を見て、その割合がいちばん大きい遊びに決めるとよいと思います。

【まなみさんの考え】をもとにすると、どのグラフを見ればよいですか。また、どの遊びに決まりますか。

グラフを左の ア から ウ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。また、遊びを下の5つの中から1つ選んで、書きましょう。

輪投げ かくれんぼ なぜなぜ 縄とび 紙飛行機

正答

ウのグラフで縄とびと選択しているもの

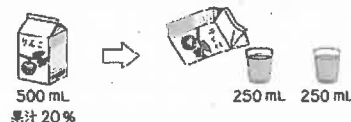
この問題は、目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみています。

目的に応じてデータを収集し、表やグラフに表したり、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったりすることができるようにすることが大切です。

グラフや表は、その目的と数値や割合の適切な読み取りが欠かせません。今後も児童の理解が進むように、丁寧に授業を展開してまいります。

【問題2 (3)】

(3) リンゴの果汁が20%ふくまれている飲み物が500 mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mLになります。



250 mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

上の○にあてはまる文字を、下の 1 から 3 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

正答

3と解答しているもの

この問題は、示された場面のように数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみています。

日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解できるようにすることが大切です。

割合の問題を苦手とする児童は多くいます。この問題は、リンゴジュースの量は半分になりましたが、味（果汁の割合）に変化はないということを日常生活の場面から想起することで、問題が解きやすくなります。今後も、児童の生活経験などを生かした授業の工夫を進め、学力向上に努めてまいります。

<理 科>

【領域別】

・「粒子」と「生命」は、県平均、全国平均を上回っております。特に「粒子」は、どちらも5ポイント以上高い結果となりました。

・「エネルギー」と「地球」は、県平均、全国平均を下回っております。

※生命に関する問題における「自然の事物・現象の理解」や粒子に関する問題における「器具の理解、正しい扱い方」などの問題の理解が高い傾向が見られます。

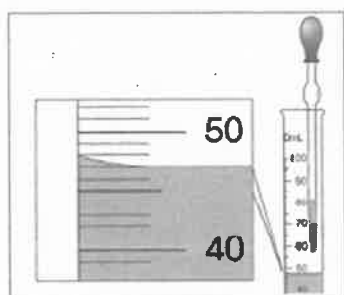
※エネルギーに関する問題における「自然の事物・現象の理解」や「追加された情報を基にしたより科学的な考えへの検討・改善、実験で得た結果を問題の視点で分析・解釈」の問題を苦手としているようです。

※どの設問も県、国よりも無回答率が低く、児童が最後まで問題を解こうと努力している姿が見受けられます。また、国語、算数よりも無回答率が低くなっています。

【問題2 (2)】

問題

(2) (1)の器具に、次の図のように、50の目盛りよりも下まで水を入れました。50 mLの水をはかりとるためには、このおとスポイトでどれだけの水を入れるとよいですか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 2 mL
- 2 3 mL
- 3 4 mL
- 4 6 mL

正答

2 と解答しているもの

この問題は、メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けているかどうかをみています。

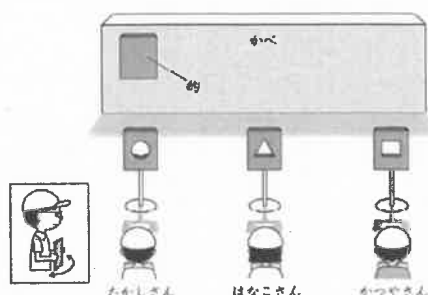
一定量の水の体積をはかり取るためには、メスシリンダーに水を少なめに入れてから、目盛りを正しく読み、必要な水の体積をスポイトで足すといった、正しい扱い方を身に付けていることが必要となります。

理科の学習では、多くの器具を使用します。どの器具も正しく安全に扱うことができなければ、正確な結果は得られません。今後も、正しい器具の扱い方を指導し、実験に興味・関心をもち、児童が楽しく学ぶことができる授業を展開してまいります。

【問題3 (1)】

問題

3 たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、あてゲームをしました。



上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ 四角形 三角形 四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

(1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある的に、三角形の光をあてることができるのはどれですか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 たかしさん
- 2 はなこさん
- 3 かつやさん
- 4 全員

正答

3 と解答しているもの

この問題は、日光は直進することを理解しているかどうかをみています。

「日光は直進し、集めたり反射させたりできること（理科第3学年）」から、反射した日光は直進することを理解していることが必要となります。

理科は、3年生から学習が始まり、植物や昆虫、光や音など身の回りの事象から学んでいきます。児童の「知りたい」を引き出し、「わかった」と理解ができる授業を工夫してまいります。

＜質問紙調査から＞

【国1】【算1】【理1】

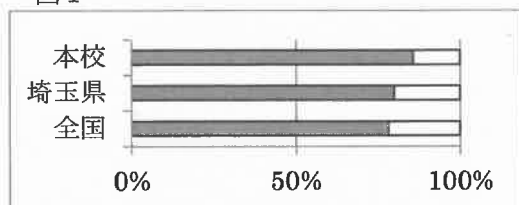
質問

解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

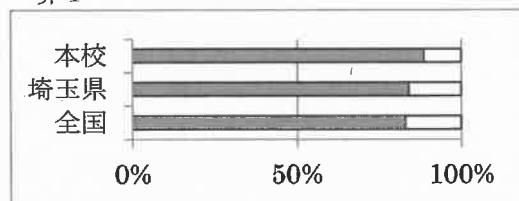
- はい…全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
- いいえ…書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった
- 書く問題は全く解答しなかった

回答

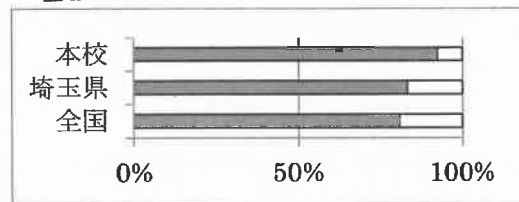
国1



算1



理1



この質問の結果から、本校の児童は、国・県と比較して、「最後まで粘り強く取り組む」ことのできる児童が多くいることが推察されます。

この「最後まで粘り強く取り組む」ことは、「やりぬく力」の育成につながります。「やり抜く力」は、近年GRIT（グリット）と呼ばれ、注目されている能力です。

学校生活では、やる抜くことで得られる達成感、目標や困難に向かって努力すること、ミスしても修正し気持ちをあらたにトライする、このようなことを体験させ、「やり抜く力」の育成に努めてまいります。

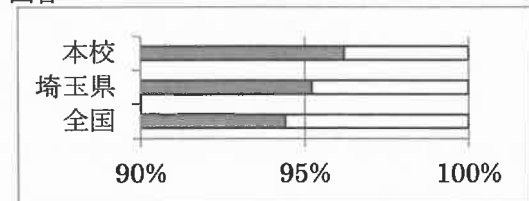
【質問36】

質問

学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

- はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
- いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

回答



子供たちも全国的にICT機器の活用が勉強に役に立つとの認識があるようです。

今後、学校では、効果的なICT機器の活用について、研修を重ね、授業に還元できるようにしております。

また、使用する際のルール等を確認し、ネットトラブル等にあわないよう指導をしております。ぜひ、ご家庭でもICT機器の使用にルールを決め、安心・安全なICT機器の活用にご協力ください。

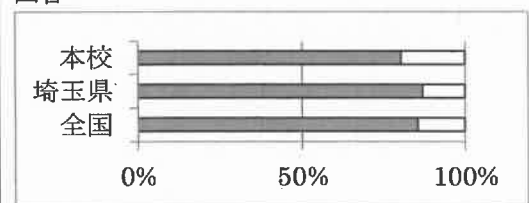
【質問16】

質問

学校に行くのは楽しいですか。

- はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
- いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

回答



国・県と比較すると「はい」が若干少ない結果となっています。いつも子供たちが笑顔でいられるように、楽しいと感ずることができるよう、職員一同工夫を凝らして、授業や学校行事等を展開してまいります。

また、子供たちのちょっとした変化に気付くことができるように職員間で情報共有し、安心・安全な学校づくりを推進してまいります。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和4年5月11日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	14	70.8	70.2	15	68.0	64.3	15	66.9	66.8
情報の扱い方、我が国の言語文化	3	59.7	59.0	2	59.8	59.1	2	58.5	63.6
話すこと・聞くこと・書くこと	5	46.5	40.5	5	54.9	49.5	5	67.4	65.3
読むこと	4	71.0	63.1	8	51.6	44.5	8	52.9	57.4
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑	↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	64.9	64.0	13	66.3	62.2	13	62.0	64.2
図形	6	53.1	51.4	8	64.6	56.7	8	55.3	56.7
4年測定 5, 6年変化と関係	6	61.7	61.8	5	80.2	74.1	5	61.4	65.0
データの活用	5	73.5	75.7	6	71.8	64.0	6	48.3	50.3
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は80%以上 (%)

内容	項目		第4学年	第5学年	第6学年
○はじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻	89.1	91.9	93.8	
		92.7	94.9	96.9	
	② 授業の開始時刻	87.8	90.9	94.2	
		89.1	96.6	96.2	
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ	79.6	82.1	85.5	
		73.0	73.5	91.5	
④ 整理整頓	76.2	76.7	79.9		
	73.0	74.4	83.1		
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする				
	⑤ あいさつ	75.8	75.6	77.7	
		75.2	75.2	70.0	
	⑥ 返事	85.5	85.6	86.1	
		88.3	83.8	84.6	
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
	⑦ ていねいな言葉づかい	82.3	85.1	87.7	
		83.2	90.6	87.7	
⑧ やさしい言葉づかい	81.8	83.2	83.5		
	83.9	82.1	86.9		
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る				
	⑨ 学習準備	82.3	84.6	87.2	
		84.7	84.6	86.9	
	⑩ 話を聞き発表する	75.1	74.5	74.9	
		72.3	74.4	75.4	
	6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度	81.4	81.9	83.2	
		86.1	84.6	85.4	
⑫ 掃除・美化活動	89.2	87.6	86.5		
	90.5	89.7	87.7		

本校の学力向上の取組

本校の学力向上プラン

令和4年度 学力向上プラン 全体計画

桶川市立桶川東小学校

- ・日本国憲法・教育基本法・学習指導要領
- ・埼玉県小中学校教育課程編成要綱
- ・県教育行政重点施策・教育振興基本計画等

学校教育目標
あかるく かしく たくましく
～未来へ はばたけ けやきっ子～

- ・地域の美譽・児童の美譽
- ・保護者の願い・教師の願い
- ・地域の願い等

本年度の学力点

- (1)あいさつを通じた授業観望
- (2)学年・学年を問いた多様な学び
- (3)通き力改革
- (4)ICTの効果的な活用
- (5)不登校支援
- (6)Wはとこナ 学びを止めない

学校経営方針
先生大好き 友だち大好き 学校大好き 桶川東小学校

目指す児童像

いつでも笑顔ある
あいさつができる
けやきっ子

【本校の学力の課題】
全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査からの課題
算数科を中心に基礎・基本的な学力の確実な定着

【新たな課題の確認】

- 効果のあった実践の選抜
- 新たな課題への対応
- 本年度の教育計画等への位置づけ

①課題を改善するための計画

P

【課題解決に向けた計画】

- 学力向上プランの作成（4月）見直し（11月）
- 全教員の共通理解
- 保護者・地域への広域活動

②課題の
振り返り

A

PDCA
サイクル

③計画に
基づく
指導の実践

D

【改善状況を把握する指標の設定】

- ①全国学力・学習状況調査
- ②埼玉県学力・学習状況調査 10月
- 成果と課題の把握と指導法工夫の研修
- 2月に行う学校評価
- 課題と対策一実施へ

④実施の把握

C

【授業での実践】

- 音読活動の充実
- 少人数やITによる指導法の工夫と改善
- 1時間授業プランを活用した授業展開
- ICTを効果的に活用した授業の実践
- 課題研の推進（学力向上・算数科学習指導）

授業における取組

★1 指導法の工夫

- (1) 学校全体で各教科のノートの使い方を統一し、同一の流れで授業が進められるよう実践しています。
- (2) クロームブックで画像や動画を提示したり、具体物を活用したりして、内容の理解が深まるように授業を進めています。
- (3) クロームブックを活用することで、児童同士の意見の交流や発表が活発に行えるような工夫をして授業を進めています。
- (4) チームティーチングにより、児童にわかるよう細やかな指導を行っています。
- (5) 職員同士で授業を見合い、意見交換をし、授業力の向上に努めています。

★2 言語活動の充実

- (1) 全ての教科において、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で意見交流する時間（口頭、クロームブックなど）を確保します。
- (2) 自分や友達の意見をまとめ、ノートやクロームブックなどに書き込む時間を確保します。
- (3) クロームブックで自分の考えを入力できるように、タイピングの練習を行い、タイピング技能の向上を図っています。

■3 学習に対する態度の育成

- (1) 学習の用意や発表の仕方など学習規律を身に付けることで集中して授業に取り組める環境を作り、授業を進めていきます。
- (2) 教員による評価だけでなく、クロームブックを活用して、児童自身による自己評価や児童同士による相互評価を行い、向上心を養います。

授業以外の取組

★1 家庭学習の習慣化

- (1) 10分×学年は家庭学習の時間を取るように周知しています。
- (2) 児童の実態に合わせ、宿題の内容を吟味し出しています。
- (3) 家庭学習パワーアップウィークを実施することで、家庭での学び方に対する理解を深めていただいています。

■2 学力向上プランの見直し

- (1) 授業をよりよく進められるように、全国学力学習状況調査や埼玉県学力学習状況調査の結果を分析・考察し、児童の実態を見だし、学習指導の工夫・改善を図っています。

★…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

保護者・地域の皆様へ

日頃より本校の教育活動に、ご理解・ご協力いただきありがとうございます。

学力は、継続的に学習活動に取り組むことで身に付きます。本校では、児童の実態を把握したうえで、授業の工夫や改善を進め、学力向上に取り組んでおります。そして、学校の授業以外に、家庭での学習も学力の定着には欠かせません。本校では、学期に1回家庭学習パワーアップウィークを実施し、家庭学習の習慣化を図る取組を進めています。

また、規則正しい生活習慣を身に付け、計画的、自主的に学習する力を育成していくことが、生涯にわたる学習習慣の基礎となります。テレビ等の視聴時間やスマートフォンやゲームの使用時間、SNS等の利用の仕方等、各家庭でルールを決めていただき、健全な活用を進めてください。

児童の学力の向上を目指して様々な取組を進めてまいります。今後も引き続きご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。